



株式会社インターネットイニシアティブ

2004年度第2四半期決算説明会

2004年11月11日

注意事項:この資料には、1995年米国民事証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述 (forward-looking statements)」に該当する情報が記載されています。このプレゼンテーション資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づくIIJ経営陣の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。IIJの実際の活動または業績は、今後、将来の見通しに関する記述に示されたところと大きく異なる可能性があります。投資家の皆様におかれましては、1934年米国証券取引法 (Securities Exchange Act of 1934) に基づく今後の報告書等においてIIJが行う開示をご参照ください。

2004年度第2四半期は、大幅増収、営業黒字転換

営業収益(売上高) 10,512百万円 (前年同期比 14.4%増、前期比 21.2%増)

営業利益 282百万円 (前年同期 830百万円、前期 100百万円)

2004年度上半期にて、営業・当期損益ともに黒字化

営業利益 182百万円(前年同期 2,035百万円)

当期利益 1,162百万円(前年同期 2,753百万円)

- ▶ ソリューション提案による営業収益増加とコスト抑制にて継続的な利益構造を実現
- ▶ SIの季節変動要因で下半期比上半期は低調ながら黒字化を達成、下半期も増益基調は続くものと想定

業績サマリー

サービス概況

2004年度第2四半期

(百万円)

	2Q04 (7-9月)	2Q03	前年 同期比	1Q04 (4-6月)	前期比
営業収益 (売上高)	10,512	9,185	14.4%	8,675	21.2%
売上原価	8,854	8,337	6.2%	7,443	18.9%
販売管理費等	1,376	1,678	18.0%	1,332	3.3%
営業損益	282	830	-	100	-
当期損益	273	278	-	1,434	-

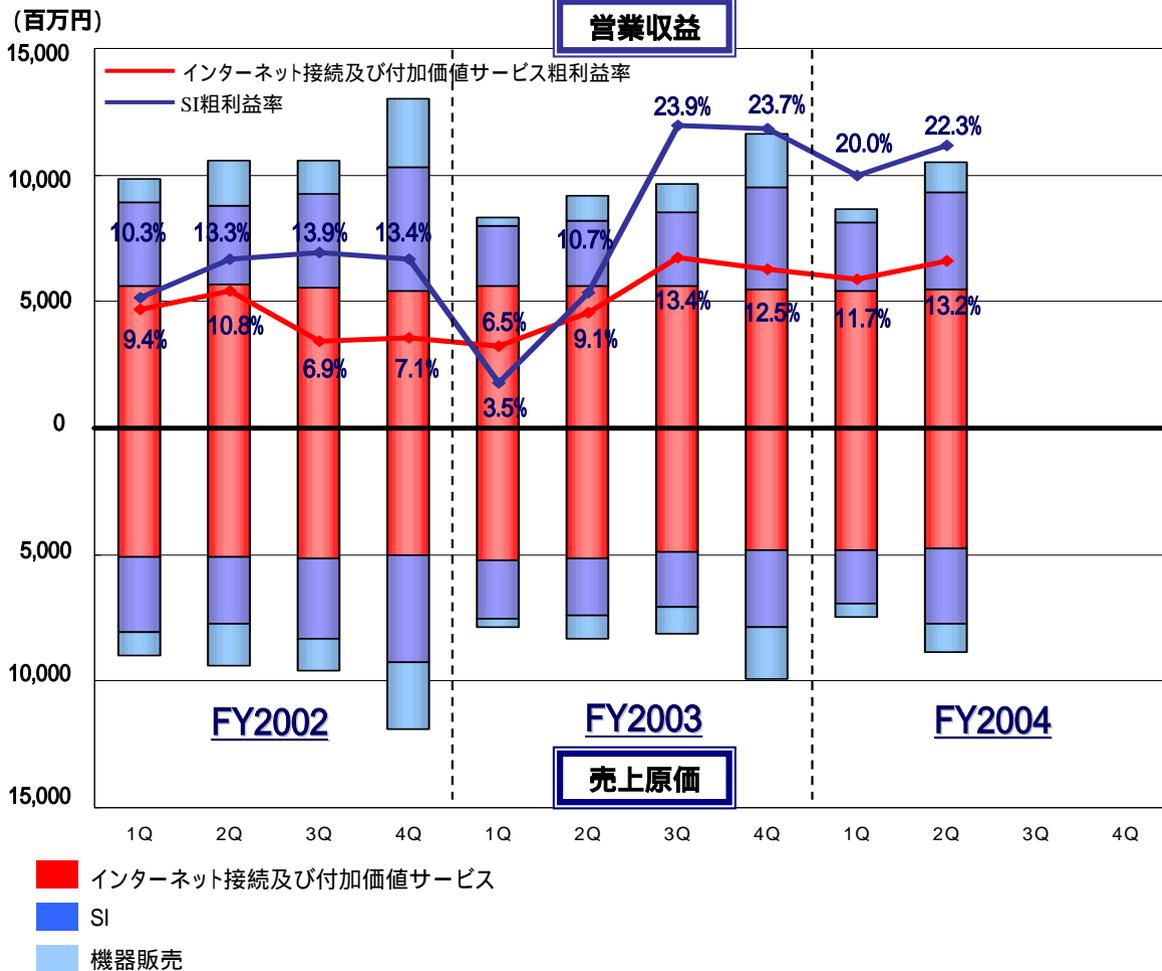
- ▶ 付加価値サービス・SIを中心に売上増加、営業収益は前年同期比・前期比ともに大幅増
- ▶ 売上原価率・販売管理費率は継続的に低減
(2Q03の販売管理費はクロスウェイブの売掛損失等 3.1億円を含む)
- ▶ 営業損益は前年同期比・前期比ともに大幅改善

2004年度上半期

(百万円)

	FY2004 上半期	FY2003 上半期	前年 同期比
営業収益 (売上高)	19,187	17,529	9.5%
売上原価	16,297	16,206	0.6%
販売管理費等	2,708	3,359	19.4%
営業損益	182	2,035	-
当期損益	1,162	2,753	-

- ▶ ソリューション提案による営業収益増加とコスト抑制にて継続的な利益構造を実現
- ▶ SIの季節変動要因で下半期比上半期は低調ながら営業・当期損益ともに黒字化、前回ガイダンス(上半期黒字化)を達成
下半期も増益基調は続くものと想定



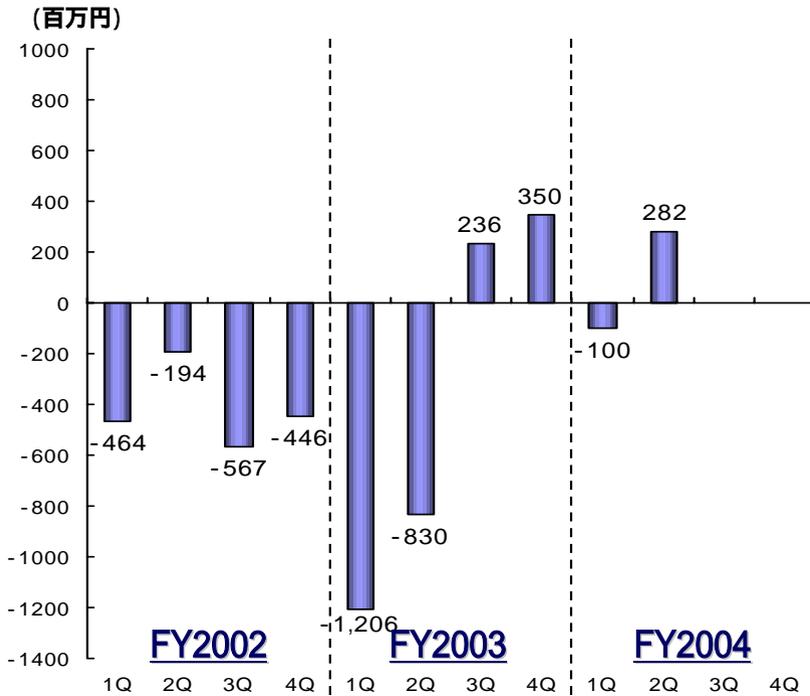
▶ インターネット接続及び付加価値サービス粗利益率は13.2%と、昨年度下半期より安定推移

- ・ 付加価値サービスの売上高が順調に増加。今後も大きなコスト負担のない売上増加を期待
- ・ バックボーンコスト(前期から107百万円減少)等の固定的売上原価は、引き続き低減基調、3Q04も同様と想定

▶ SI粗利益率は22.3%と、前期比2.3%増加

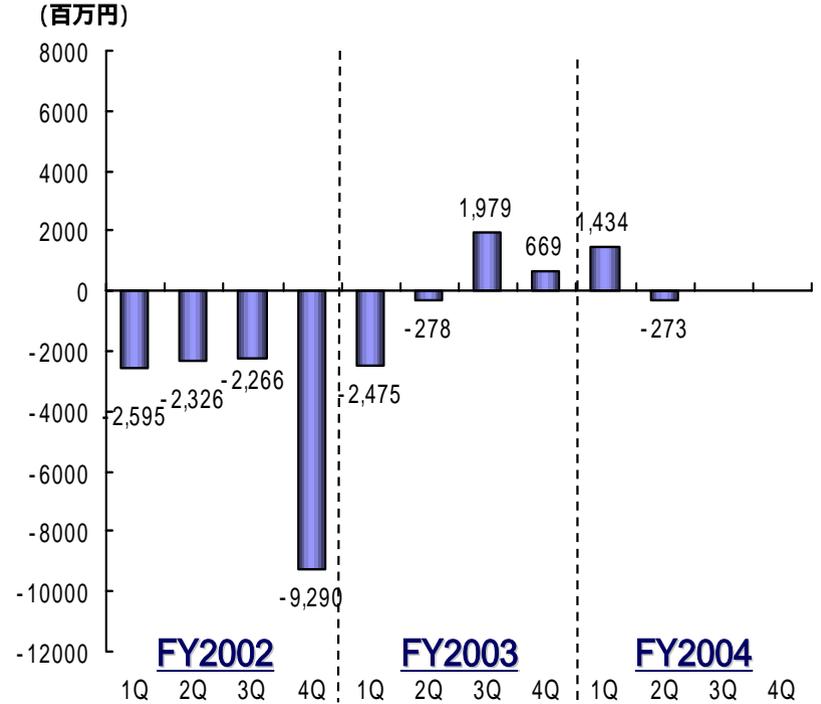
- ・ 売上高の小さい1Q04よりも、売上粗利益率増加
- ・ 引き続き、技術力をベースに運用案件増収、コンサルティング機能を含んだソリューションプロジェクト推進等による粗利益率増加基調を展望

営業損益



- ▶ SIの季節変動等により下半期比低調な上半期にて、黒字化を達成
- ▶ 営業収益増加とコスト抑制にて継続的な利益構造を実現

当期損益



- ▶ 2Q04は、営業損益は黒字であったが、保有株式の株価低下による税効果会計により当期損失計上
- ▶ クロスウェーブの持分法解消により従前の大幅な赤字構造を脱却

企業のネットワーク利用に対する信頼性・重要性の高まり、官民におけるネットワーク活用の増大等により、事業環境は継続的に改善基調にある。ネットワーク・ソリューション・プロバイダとして、引続き、技術力を基盤に信頼性の高いソリューションをロイヤルカスタマーへ提供し、さらなる事業進展、プレゼンス強化を図る。

- ▶ **引き続き、2004年度通期の営業損益及び当期損益黒字化をターゲット**
- ▶ **3Q04(10-12月期)以降も、営業利益の増益基調を想定**

- ・ (株)ヤマタネより、証券会社向けシステムの開発・運用事業を譲り受け
- ・ 新会社「(株)アイアイジェイフィナンシャルシステムズ」を設立

譲受け事業の概要

事業内容 : 証券会社向け有店舗証券業務システムの開発及び運用サービス

売上高 : 約23億円(2003年度実績)

営業譲渡日: 2004年10月1日

(株)アイアイジェイフィナンシャルシステムズ概要

事業内容 : 金融機関向けのシステム開発及びその運用

設立: 2004年9月

資本金: 50百万円

株主: (株)アイアイジェイ
テクノロジー100%



IIJ Financial Systems

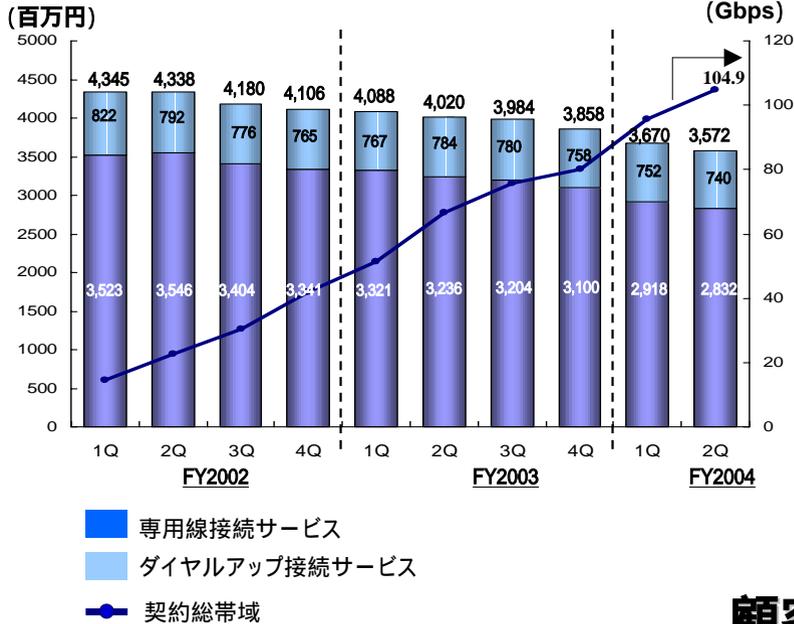
▶ IIJグループのオンライン証券システムの開発・運用ノウハウと、ヤマタネの有店舗証券業務システム開発・運用のノウハウの融合により、総合的な証券システムの提供を可能に

▶ 銀行による証券仲介業の解禁等、規制緩和が進む一方で、ネットワークの高度利用が進みはじめている金融セクターに対し、ソリューション事業を展開する礎に

業績サマリー

サービス概況

インターネット接続サービス売上高

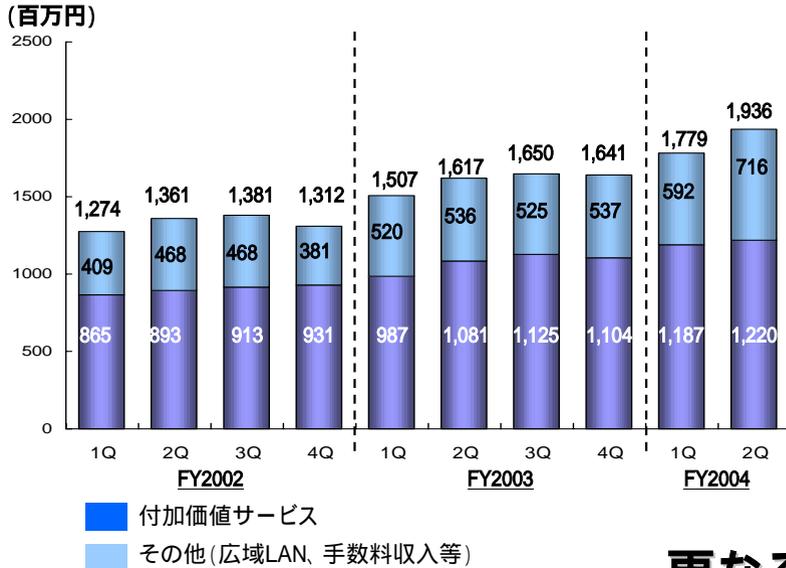


- ▶ IPサービスの個別大口解約・より安価なブロードバンド回線への移行はおおむね収束傾向にあり、新規獲得による売上増とあわせ、減収傾向は年度内に底を打つと想定
- ▶ 引き続き多拠点接続案件に注力、対象マーケットをWAN・LANへ拡大、2Q04で約1,200拠点(1Q04は約1,000拠点)を獲得
- ▶ 契約数は順調に増加
(専用線接続 契約数 1Q04 8,076回線 2Q04 8,880回線(約270本/月))
- ▶ 契約総帯域が100Gbpsを超える(1Q04 95.6Gbps 2Q04 104.9Gbps)
- ▶ Gbps超単位顧客も20件へと増加
- ▶ 通信サービスの公共性の観点から地震・台風被災者の方々に對する個人サービス無料期間措置を実施、ただし売上高に対する影響は軽微
- ▶ 国内・国際バックボーンコストは引き続き減少(前期比10.9%減)

顧客基盤の拡充

- ✓ 付加価値サービスやSI提供の基礎となる顧客基盤の拡大
- ✓ ネットワーク活用の重要性の高まりによる企業の信頼性ニーズ増大への対応
- ✓ 多拠点接続案件に注力・推進中、ロイヤルカスタマー化

付加価値サービス及びその他売上高

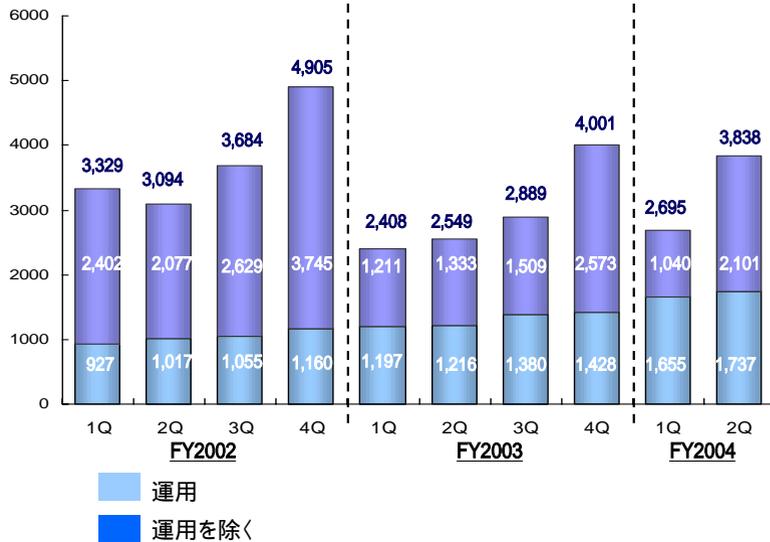


- ▶ 売上高は前年同期比12.9%増、前期比2.8%増と引き続き増収、売上高の大きな柱に
- ▶ セキュリティ、サーバアウトソーシング、データセンター案件も継続伸長
- ▶ 多拠点接続案件の獲得によるSMFサービス(ルータの自動設定サービス)利用や対応ルータ(SEIL)レンタルサービス等のネットワークアウトソーシング系が売上増加に貢献
- ▶ SMFは約3,000拠点の導入獲得
- ▶ SMF販売チャネルの拡大(NTT Com、QTNet等)
- ▶ フレッツ回線の手配・一括保守を可能にする「回線マネジメント/Fサービス」を提供開始、インターネットVPNのワンストップソリューションを強化
- ▶ 迷惑メール対策サービスを新規提供、従来のメールアウトソースサービスとあわせ企業の信頼性向上のニーズを捕捉

更なるプレゼンスの発揮

- ✓ インターネット技術の本質的な理解と長年培ったバックボーン、セキュリティ、メール等の運用技術力による差別化
- ✓ サービスラインアップの充実による企業の各種アウトソース需要への対応
- ✓ マネージド型サービスにて顧客ニーズを吸収、囲い込み

SI売上高



- ▶ 売上高は前年同期比50.5%増、前期比42.4%と大幅増
9月末に向けて構築案件売上が増加
- ▶ フレームリレーの置き換え需要であるインターネットVPNや
広域LANを利用した多拠点WAN構築案件の増加で、ネット
ワーク構築や機器設定・導入などの売上が増加
- ▶ ソリューション提案によるネットワーク設計、セキュリティコ
ンサル、プロジェクト管理・導入支援等(高内製コスト割合)
の売上増加及び利益効果
- ▶ 運用アウトソースサービスの恒常的な売上高が引き続き
順調に増加、安定した収益基盤を構成
- ▶ (株)ヤマタネの証券システム開発・運用事業の譲受けに
より、3Q04以降、増収・増益効果を想定

引き続き売上・利益の成長ドライバー

- ✓ ロイヤルカスタマーの多様な個別ニーズに対するソリューションの提供
- ✓ 運用案件強化による安定的な売上高増大・高収益基盤の確立
- ✓ ネットワーク・インテグレーションを契機とした社内ネットワークシステムへの深堀提案

- ・インターネット接続サービス利用顧客の付加価値サービス利用率は引き続き高水準で推移
- ・SI利用顧客の接続サービス利用率も上昇

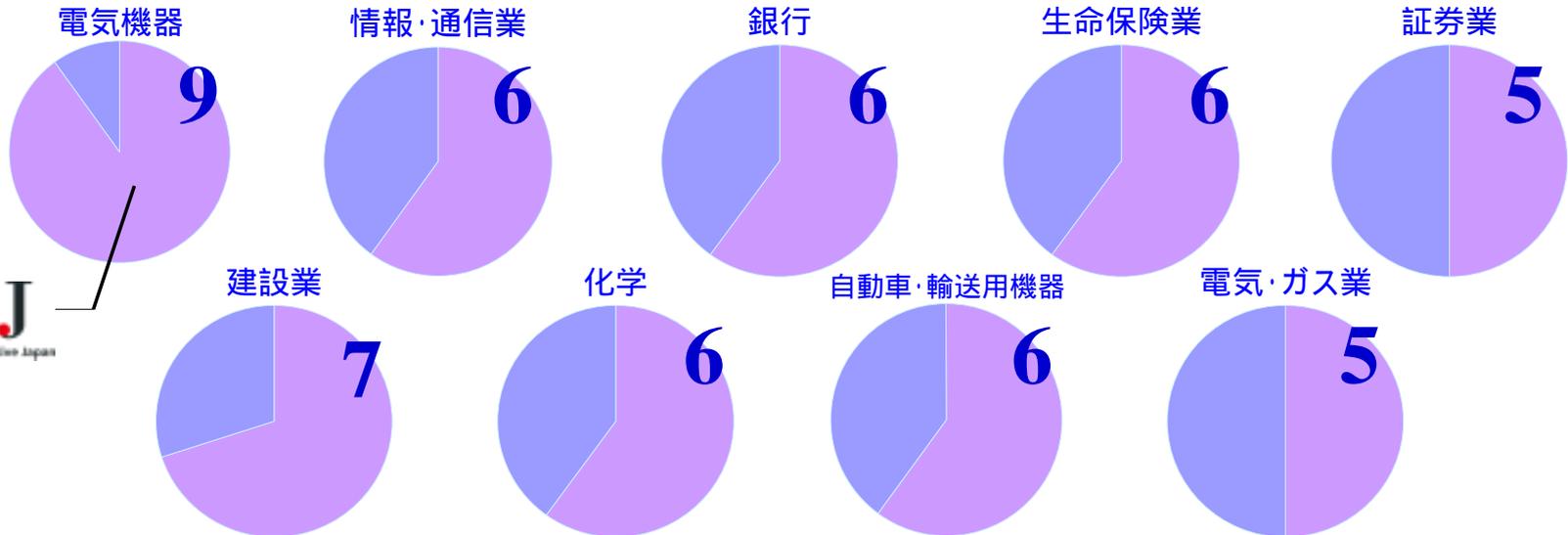
	2Q04	1Q04
インターネット接続サービス・付加価値サービス クロスセリング率*1	86.9%	86.8%
SI・インターネット接続サービス クロスセリング率*2	80.0%	66.0%

*1 インターネット接続サービス売上高上位1,000社の内、付加価値サービスを併用している顧客の割合

*2 SI売上高上位100社の内、インターネット接続サービスを併用している顧客の割合

IIJの信頼性の高いサービス品質は、ネットワーク利用の高度化が進む大企業の多くに支持されている

▶ 上場企業 業界大手10社におけるIIJ利用度



上場企業 業界大手10社:

東洋経済新聞社「会社四季報(2004年4集)」掲載の業種区分、および2003年度連結売上高から作成
(銀行、証券、生命保険業を除く)

株式会社ウェザーニューズ様

世界最大の気象情報会社。世界36都市15ヶ国/地域に展開し、携帯コンテンツ、メディア、防災機関等宛に情報を配信する。取引先への情報提供用ネットワークを、従来の専用線からブロードバンド回線によるWANへ移行中。

- ✓ プラットフォームとして、インターネットVPNとSMFを採用
- ✓ 当初、100拠点で展開。将来的に数100拠点へ拡大予定
- ✓ 韓国の取引先とのネットワークに、IIJの国際VPNサービスを利用

某大手飲料メーカー様

全国に広がる製造・販売会社15社を含む約30の拠点を繋ぐ大規模基幹ネットワークを再構築。

- ✓ 2000年より、IIJ-Gのサービスを提供
IIJのネットワーク運用の信頼性を高く評価、以降、DB開発、アウトソーシング等のSI案件も受注、全国の製造・販売会社へもサービスを展開
- ✓ 2004年は、基幹ネットワークの設計・再構築をIIJ-Gで実現
(メイン/バックアップ回線共にIIJで提供)
- ✓ データセンター利用により、全社LISシステムの構築・運用

某電動工具メーカー様

全国の約100営業所を結ぶ社内ネットワークを、従来のフレームリレーから、インターネットVPN網へ移行。主要な営業所間は、IIJ広域LANサービスとインターネットVPN網で冗長化。

- ✓ プラットフォームに、IIJ SMFサービスとSEILを採用
- ✓ インターネットVPNをバックアップに利用したネットワーク提案力、広域LANサービスとインターネットVPNのワンストップ提供が高く評価

某ニュース配信会社様

専用アプリケーションを用いて、全国の顧客へニュース・情報をリアルタイムに配信する。3000拠点にも及ぶ情報提供ネットワークインフラを、従来の専用線からインターネットVPNへ移行中。

- ✓ プラットフォームに、IIJ SMFサービスとSEILを採用
- ✓ IIJのプロジェクトマネジメント力を高く評価
- ✓ 当初 200拠点で展開。将来的には 3000拠点程度にまで拡大の予定

各通信キャリアが提供するインターネットVPNサービスの中核機能として、「SEIL」、「SMF」の採用が本格化

- ▶ 法人向けインターネットVPNサービス、マネージドサービスの標準機能として採用が本格化
- ▶ 今後、ホームゲートウェイ等へのSEIL機能の組み込み等、ライセンス提供モデルを推進
- ▶ IIJの持つ高度な技術の、知的財産面での活用を展望

SMFの提供先



参考資料

- ・今後への展望
- ・IIJグループの提供する付加価値サービス

事業環境

利用の増加

- ・ 日本経済は景気回復基調
- ・ IT投資についても復調の兆し
- ・ ブロードバンド化の進展と普及
- ・ 政府によるe-Japan の進展
- ・ 情報家電/ネットワーク化
- ・ 個人情報保護等への意識の高まり

企業動向

高信頼性への要請

- ・ 広帯域ネットワークの利用が更に普及
- ・ ネットワーク利用の高度化・複雑化による運用アウトソースニーズの高まり
- ・ セキュリティー・ニーズの高まり
(情報漏洩・アンチウイルス対策への意識向上)
- ・ 情報システムコスト/総務コストの融合

NTT

- ・ 共同研究推進
- ・ 人材交流
- ・ 事業協力



IIJグループ

ネットワーク・ソリューション・プロバイダとしての進展

- ・ 技術力に裏打ちされた、信頼性の高いソリューションをトータルに提供
- ・ 顧客が求めるネットワーク・システムを提案し、創りあげ、運用する能力

競合他社

- ・ 競合他社の合従連衡 - パラダイムシフト
- ・ 引き続きの価格競争

ビジョン

- ・ 今後のネットワークのあり方についての提言
- ・ 日本の商用ネットワークを創り上げてきた見識
- ・ 各種政策機関への関与

技術力

- ・ 新技術への対応
IPv6, AutoID, CDN
- ・ ギガビットクラスのネットワーク及びサーバ運用能力

信頼性

- ・ 顧客のネットワークを運用・管理するトータルマネージドサービス
- ・ 信頼性を支える技術力 (SEIL, SMF等)

社会性

- ・ 次世代ネットワーク社会への貢献
- ・ 企業としての安定した利益基盤

[セキュリティ系]

インターネットからの不正なアクセスや攻撃に対応するシステムの提供

脆弱性診断やセキュリティポリシー策定、社内教育等のセキュリティ支援

IIJセキュリティスタンダード

IIJセキュリティプレミアム

IIJセキュリティライト

IIJネットワーク侵入検知サービス

IIJセキュアリモートアクセス

セキュアリモートアクセス (IIJ-Tech)

セキュリティアセスメントおよびセキュリティ関連コンサルティング (IIJ-Tech)

[ネットワークアウトソーシング系]

設定・監視・保守を含めたインターネット接続機器と自動設定・管理機能等の提供

暗号化技術を用いた安全・安価な拠点間接続ネットワークの提供

ルータレンタルサービス (SEIL)

マネージドルータサービス (SEIL)

レンタルルータサービス

Omnibus

IIJ SMFサービス (特許出願中)

IIJ VPNスタンダード

[サーバーアウトソーシング系]

電子メールサーバやウェブサーバ、配信サーバ等の提供

外部ホームページへのアクセス制限や送受信メールの監査・保存等のセキュリティ機能の提供

IIJ Mailゲートウェイサービス

IIJポストオフィスサービス

IIJメールボックスサービス

IIJ Webスタンダード

IIJ ダウンロードサイトサービス

IIJ URLフィルタリングサービス

IIJドキュメントエクステンションサービス

IIJネットライトニング

IIJ DNSサービス

IIJ Mailゲートウェイサービス/E (IIJ-Tech)

IIJ Webゲートウェイサービス (IIJ-Tech)

SoMail (IIJ-Tech)

同報通知 (IIJ-MC)

ストリーミング・ライブ中継 (IIJ-MC)

* 迷惑メール対策も取組中

[データセンター]

専用建物内にサーバ等を設置、需要に応じ機器や運用・監視リソース等を月額費用で提供 (リソース・オンデマンド・データセンター)

IIJグループ・データセンターソリューション

IBPS (Integration & Business Platform Service) (IIJ-Tech)